

一般社団法人湿原研究所主催

第18回晩成学会「日高山脈はどのようにできたのか？」

「動かざること山の如し」(孫武)というが、一方では「桑田変じて滄海となる」(劉希夷)という言葉もあります。46億年の地球の歴史のなかでは、地球の表層部(深部も)は地質学的時間スケールでは常に千変万化しており、山が海になるどころか、大陸が移動し、互いに衝突合体して超大陸を造ることもあります。

北海道の背骨(脊梁山脈)といわれる日高山脈は島弧-島弧衝突型の造山帯(山脈)で、衝突型造山帯の内部や地表で起こるいろいろな現象(地殻変動)がよく観察できます。天然記念物に指定され、日本ジオパークにもなっている日高山脈南端部のアポイ岳を作っているかんらん岩は地下約 60km の深部(マントル)にあったものですが、現在は地表に露出しています。また、東側の十勝原野から見る日高山脈は山岳画家坂本直行氏が描くように間近に屹立してパノラマをなしているのに対して、西側の日高海岸からみる山脈は幾多の前山に遮られています。これらは衝突過程の産物です。

本セミナーでは、初日前半では山脈形成の一般的な話、後半で日高山脈の形成や地質や河川(ダム)との関係についてお話します。また2日目は現地観察会を行います。

■講師:在田一則先生(北海道大学総合博物館資料部研究員) 北海道大学理学部卒、地質学鉱物学を専攻。北海道大学理学部助手、助教授、教授を経て現職。長年日高山脈の地質構造と形成の研究をしている。

■日時 2013年9月21日(土)14:00~ 22日(日)14:00*

***22日は通常と異なった時間となります。ご注意ください!**

■場所 21日晩成温泉 原生花園1階研修室(大樹町)、22日現地見学会(広尾町、えりも町、様似町)

21日(土) 14:00~ 講座1 北海道の背骨の生い立ちを探る~衝突によってできた日高山脈~(1)

1. 山はどうしてできるか 2. プレート運動と山脈形成

16:00~ 講座2 北海道の背骨の生い立ちを探る~衝突によってできた日高山脈~(2)

3. 日高山脈 3.1 日高山脈を作る岩石と深部構造 3.2 日高山脈の形成-千島前弧の西進と衝突
3.3 山脈の上昇過程とその影響

18:00~ 夕食・懇親会(晩成温泉和室にて行います)

ビール・ハイボール等は各自でご注文をお願いします。

22日(日) 7:30~ 講座3(現地見学会) 日高山脈の地質の観察

晩成温泉出発(7:30)→広尾町豊似出発(8:00)→広尾町・黄金道路を通って襟裳岬→えりも町、様似町経由→国道236号(天馬街道)野塚峠→広尾町豊似(14:00までに解散)

上記のコースで日高山脈の地質や地形がよくわかる、とっておきの場所5~6地点を在田先生が詳しく解説いたします。昼食は現地で簡単に済ませます。

■費用(カッコ内は会員様価格です)

講座料:3,800円(3,000円)/講座1、講座2 各650円(各500円)

講座3(現地見学会) 2,500円(2,000円)/車代 800円

夕食・懇親会 晩成温泉和室にて1,500円(お申し込みが遅れた場合は食堂の食事注文となります)、飲物代別。

宿泊希望の方はお申し出ください。晩成温泉で一泊3,000円です。申し込みが遅いと相部屋になります。

申込み 湿原研究所 FAX:01558-7-7550 e-mail: info@wetlands.jp **[9月15日(日)までに]**

◇本講座は「北海道 e-水プロジェクト」と「前田一步園財団自然環境活動助成」の支援を受けて実施します◇